（議事概要）

第2回 徳島県観光スポーツ文化部指定管理候補者選定委員会
＜徳島県立阿波十郎兵衛屋敷＞

日時：令和8年10月7日（水）11時20分～12時00分
場所：県庁7階　選挙管理委員会委員室

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷管理運営業務参加グループ　提案説明

質疑応答

（委員等）

ありがとうございます。今お話にもあったと思うんですけど、モウブさんが今回入られるということですが、具体的にどういう役割分担で進めていかれるのかを教えていただきたいです。管理収入とか入ってくると思うんですよ。大体何対何ぐらいの割合でされる予定なのかというところ含めてお願いします。

（申請者）

まず事業課長、それから「地域文化プロデューサー」というポジションをモウブの方で担ってもらえたらと思っております。お金の何対何かというところまで十分詰められてはないですが、一括計算する中で、事業計画書に入っている金額の中でなんとかやっていけるのではないかと。

補助金を活用したり、あと売店の売上も伸び、少しずつ利益が出るようになってきておりますので、物販も力を入れたり、出張公演というか、いろんなところへ公演に出ていく、そんなに大きく儲けるものではないですが、少しずつ出張公演もこなして、収入を得ながら、指定管理料以上の運営が図られるのではないかと思っております。

（委員等）

企画とか広報とかそういった部分を期待されているということですか？

（申請者）

そうですね。それと穴吹グループが経営している市町のホールに呼んでもらうだけでもたくさんの機会が増えると思います。そこからどう繋げていくのか、ワクワクするような期待感を持って応募させていただいています。

あと、技術力、音響、照明、舞台、これは我々NPO 法人でやってきましたが、やはり不安もあります。プロの技術屋も抱えておりますので、その技術力と我々が作ってきたコンテンツを持って、いろんなところへ出張公演もやっていきたいなと。

簡単に言いますと、音響と制作、これまで連携先である当社の方で力を入れてまいりまして、音響に関しては、四国の同業者からも、ある意味においては一目置いていただけるようなところまで来ており、今後はその他映像、照明、舞台に関わる全ての分野を網羅していきたいというのが、今のモウブの考えでございます。
あとはそのバックとしましては、穴吹エンタープライズ、あるいは穴吹グループの方では、観光の人流ですね。それから昨今では、アリーナも含めてかなりの方がいわゆる「エンタメツーリズム」と言いますか、人の入りが四国の方に今向いてきておりますので、先ほど申請者が申し上げたように各地の守るべき文化と言いますか、貴重な資産についてはそれを逆に発信していくような形で、弊社としても色々お手伝いできたらと思っております。

（委員等）
どちらかというと「洋」の方のお仕事多かったと思うんですけど、こういう「和」の方というのは今まで手掛けられたことってあるんですか？

（申請者）
モウブとしましては、いただいた案件が「和」の物であるという場合には、お話を受けしまして、舞台技術としてやらせていただいています。
こちらから仕掛けるということでいけば、親会社の穴吹エンタープライズのエンターテイメント事業部というところがありまして、こちらは人形浄瑠璃ではないんですが、4年ほど前から、香川の方の文化資産を使ったいわゆる「能楽」ですね。栗林公園で毎年行われているものは、我々の方で手掛けさせていただいていますので、各地の文化資産・文化資源は、浄瑠璃の他にも和文化というのはたくさんありますので、そういった文化は非常に大切にしていきたいと思っております。

（委員等）
ありがとうございます。

（委員等）
「地域文化プロデューサー」、非常にいいお仕事と思うんですが、パート採用で、時間は 6 時間として、何日ぐらい出社というようなところは。

（申請者）
具体的に言うと、僕がその役をさせていただけないかと考えております。県で 29 年文化振興の行政でやらせてもらって、それから退職して 13 年、阿波十郎兵衛屋敷で本当に色々考えて取り組ませてもらった、そのノウハウを全て注ぎ込んで、是非この

仕事もライフワークとしてやらせてほしいと、お願いして、全力を挙げてこの仕事にと。

（委員等）
　大変大事な仕事だと思っておりますよね。今まで一番いなかったジャンルじゃないかと思う。こちらのものとあちらのものをうまく結びつけて磨いて発信する、それがなかったんですよね、今まで。

（委員等）
　売店のことに関しても、非常にブランディングがうまくいっている。文化的価値をつけて。板野の道の駅などでも。

（申請者）
　上板のサービスエリアですね。

（委員等）
　地元の農産物とか、最近人気だと。そういったものも何かコラボできて、行ってグッズを買う、お土産というよりも自分の記念のものを買う、というのが旅行の大きなトレンドになっている中で、是非そういったユニークなものとか、場合によっては、旬の果物とか、野菜でも日持ちするものとかも、農村舞台という切り口の中ではあってもいいのではないかと思うので、できたら楽しいと思います。

（申請者）
　いろんな人の知恵で、何でもやっていかないと伝統文化を残していくことすら難しいのですね。3D プリンターを使って人形を出力してみたり、映像とかコンピューターのプログラムで襖からくりという農村舞台の舞台装置があるんですが、それを映像作品にしてみたり、IT も使うし、物販も大変重要な要素だと思ってます。「ガブ」といって、お姫様に角が生えて口が裂ける人形があるんですが、徳島の人が考えたカラクリと言われてるんですね。
　アメリカの美術館も買ってくれたし、もっと PR しようということでペーパークラフトを作ったんですね。YouTube で専門にやっている人見つけて頼んで作ってもらったんですが、大変出来がよくてたくさん売れたし、大阪の文楽からも、置かせてほしいというオファーがあったり、淡路人形座とか熊本の道の駅で人形浄瑠璃やってる文楽さんがいらっしゃったり。
　あと「清姫」と言って安珍清姫、和歌山の道成寺の伝説を人形浄瑠璃でやっているんですね。お寺の住職からもオファーがあって、売店にも置いてもらっているんですね。この度アメリカの美術館のミュージアムショップにも置いてもらったり、大変手応え

があるし、大事な要素で、こんな切り口からもPRしていけるのだと思いましたが、楽しいです。

（委員等）
　人形浄瑠璃とか三番叟とか色々ありますよね。そういうのを阿波十郎兵衛屋敷だけで見るのではなくて、いろんなイベントとか、宴会ではないけど県外の人が来るような懇親会とかに来てもらえるように。いつも阿波おどりに来ていただいている。そういう感じの。

（申請者）
　最近、年間30回ぐらいはいろんなところに呼んでもらうようになりました。10月27日から改修工事で4月上旬まで休館するんですが、その間できるだけ出張公演を取ってこようと思って。アヲアヲリゾートさんが13回も呼んでくれたり、県外の小学校も呼んでくれたり。

（委員等）
　呼びたい時はどこへ申し込んだらいいのかよく分からない。直接申し込んだらいいんですか？

（申請者）
　はい。ただ、今までなかなか外へ出ていく体制が取れてなかったので、1つ余分に「地域文化プロデューサー」というポジションを作って、外へ出ていけるように1.5チームぐらいあったらいいですけどね。今まで限られた予算だけで運営するのに精一杯で、それでも30回ぐらいは年間出ていっていましたので、もっとそれを増やしていけるんではないかと。

（委員等）
　そういうのを是非やっていただきたい。

（申請者）
　是非声がけいただけたら。県のイベントの阿波おどりばかりだったところへ食い込んでいけたり、阿波おどりとも共存していきたいと思っております。

（委員等）
　1個だけ聞いていいですか？「吉野川クルーズ」の活用というのが入っているんですが、これはどういうものになるんですか？

（申請者）
「新町川を守る会」ともっと連携を深めて、全国でも他にない川のボランティア組織なんですね。ただ、ボランティアなので。

（委員等）
「吉野川クルーズ」なのか、「ひょうたん島クルーズ」との違いは。

（申請者）
これは吉野川に出て横断するというもの。

（申請者）
結構大きな川ですけど干潮の時は渡れなかったり、雨が降ると辛いし色々課題はあるんですが、「川を生かした街づくり」というのが、徳島の活性化に一番の起爆剤になるのではないかと思ってます。
船に乗って浄瑠璃を見に行けるって、世界でも他にないんですね。そこにあるものを生かして世界のどこにもないものを作る。福武總一郎さんというベネッセの社長さんの言葉ですけど、本当に素晴らしいと思って、徳島でもそういうものを１つずつ重ねたいと思っております。